希望のいしずえ

三菱商事復興支援財団　2019—2020

三菱商事復興支援財団

2019—2020

希望のいしずえ

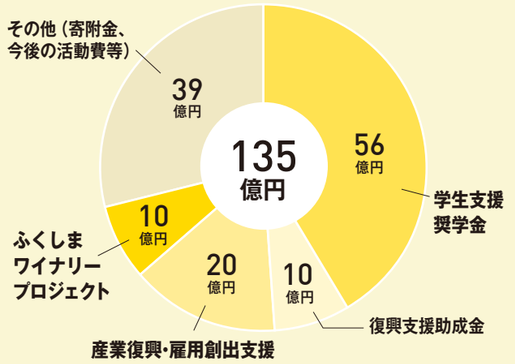
―この言葉に込めた私たちの願い―

この冊子は三菱商事復興支援財団の2019～2020年の活動報告です。当財団では、被災地の事業者を対象とした産業復興・雇用創出に対する支援、大学生への奨学金の支給、被災地で活動するNPOなどへの助成を行ってきました。2015年度からは、福島県で果樹農業の6次産業化を支援するためのプロジェクト（ふくしまワイナリープロジェクト）を開始しています。これらの活動は、被災地の未来を担う若者や、被災地の継続的な復興、経済再生の基礎となる地域産業への、いわば“被災地の未来に対する投資”。「希望のいしずえ」という言葉には、当財団による支援が被災地での希望を生む根幹になってほしいという願いを込めています。

三菱商事復興支援財団の活動

三菱商事は、2011年3月11日の東日本大震災の復興支援活動のため4年間総額100億円の三菱商事東日本大震災復興支援基金を創設し、被災した地域の状況やニーズに合わせてさまざまな活動を展開してきました。2012年春には当財団を設立し、基金の活動の一部を引き継ぐとともに、被災地の産業復興・雇用創出を目的とした支援を継続しています。2015年度には更なる活動資金として、当財団に対し35億円の追加拠出を決定しました。従来の活動を継続するとともに、福島県郡山市で新たに果樹農業の6次化を支援するふくしまワイナリープロジェクトを推進しています。

三菱商事東日本大震災復興支援基金	三菱商事復興支援財団
緊急支援奨学金	学生支援奨学金
復興支援助成金	復興支援助成金
寄附ほか各種支援	産業復興・雇用創出支援
ボランティア活動	ふくしまワイナリープロジェクト



※三菱商事東日本大震災復興支援基金を含めた概算の金額

三菱商事復興支援財団 2019－2020

3 三菱商事復興支援財団の活動
4 新型コロナ対策
6 ふくしまワイナリープロジェクト
12 産業復興・雇用創出支援
18 学生支援奨学金
22 Facts & Figures
26 2019年度財務報告
27 三菱商事復興支援財団概要

Feature

新型コロナ対策

新型コロナウイルスの感染拡大により、社会・経済ともかつてない難局に直面しました。そんな厳しい環境の中、財団が支援する事業者も「何かできることはないか」と、それぞれの事業の特性を活かした対応・支援策を実施しました。

■サンフレッシュ小泉農園（宮城県気仙沼市）

トマトで医療従事者を応援

サンフレッシュ小泉農園は、新型コロナウイルスの感染症指定医療機関である東北大学病院と、気仙沼市立病院にトマトを寄贈しました。
栄養価の高いトマトで医療従事者を支援しようと、5月1日から順次自社栽培のトマトを運び、東北大学病院には計4回920kgを、地元の気仙沼市立病院には計3回456kgのトマトを寄贈しました。
東北大学病院では、医療スタッフに配布された他、入院患者の病院食としても提供された模様です。

5月1日、東北大学病院にトマトを寄贈

社長
今野 圭市さん（中央左）

新型コロナウイルス感染症の治療の最前線で、日々大変な状況で尽力されている医療従事者の方々への感謝の気持ちと、私たちのトマトで少しでも皆さんに元気になってほしいという思いでした。

マスクフック兼ヘアゴム

■小高ワーカーズベース アトリエ「iriser－イリゼ－」（福島県南相馬市）

マスクフック兼ヘアゴムを無償で提供

小高ワーカーズベースが運営するハンドメイドガラスブランド「iriser－イリゼ－」は、5月末、南相馬市で新型コロナウイルス感染者を受け入れている南相馬市立総合病院へ、350個のマスクフック兼ヘアゴムを寄贈しました。
医療従事者の方々に感謝の気持ちを届けたいと職人自らが企画しました。

ガラス職人の皆さん

5月から工房兼ショップが臨時休業に入り、日々制作に追われていた私たちも立ち止まり、今できることは何か考えました。最前線で頑張っている医療従事者の皆さまに、感謝の気持ちを届けたい。少しでも癒されてほしい。そんな想いで一つ一つガラスを溶かしながら、心を込めて手作りしました。

■ふくしま逢瀬ワイナリー（福島県郡山市）

消毒用アルコールを製造、医療機関に配布

ふくしま逢瀬ワイナリーは、消毒用エタノールの代わりとなる高濃度アルコールを製造し、4月22日から郡山市内の医療機関に無償で配布しました。
原料には、ブランデー蒸留過程で発生した処分予定のアルコールを活用。再蒸留を繰り返して、70%以上にアルコール濃度を高めました。順次製造を進め、合計で750mℓのワインボトル約1,000本を、市内200余りの医療機関に配布しました。
また、3月半ばから5月末までオンラインストアでの注文分の通常送料を無料とした他、6月にはワイナリーを訪問した医療従事者の方々にハーフサイズのシードルをプレゼントするキャンペーンや、7月にはシードル1本の売上につき50円を地域の飲食業組合に寄附する取り組みを実施しました。

4月22日、郡山市内の配布所で医療機関の方々に配布する様子

ワインボトルに詰めた高濃度アルコール

企画担当
渡辺 学さん

地元のワイナリーとして何か貢献したいと考えました。消毒用エタノールは市内の需要が逼迫していると聞き、より必要としている方々に届けたいと思い、郡山市にもご協力いただいて、医療機関にお配りしました。

「手作りモナカアイスセット」。会津産のクルミやイチゴを使った人気アイスの6種をセレクト

■会津中央乳業（福島県会津坂下町）

自宅で楽しむ「モナカアイスセット」を開発

会津中央乳業は、5月初め、自宅でモナカアイスを作れる新商品「手作りモナカアイスセット」を開発しました。「モナカアイス」は会津産の生乳を使用したこだわりのアイスを、もなかで挟む直売所の人気商品。家庭で楽しめるよう、6種のアイスともなかをセットに仕立てました。

4月27日から5月6日まで直売所は営業自粛。本来GWは県外からのお客さまでにぎわう時期ですが、止むを得ませんでした。それに代わり、首都圏で「STAY HOME」を呼び掛けていたこともあり、自宅で会津を感じられる商品を提供できないかと企画しました。

営業部
二瓶 孝文さん

Fukushima Winery Project
ふくしまワイナリープロジェクト

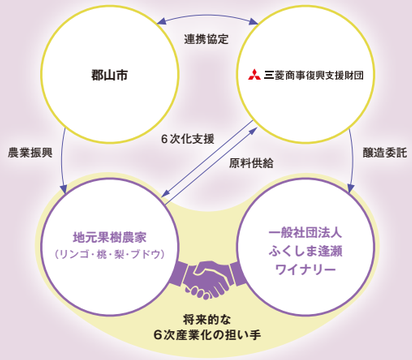
2年目の郡山産ワインができました

当財団が2015年から取り組んでいる「ふくしまワイナリープロジェクト」。
昨年春、郡山で育てたブドウを郡山で醸造した初の郡山産ワイン「Vin de Ollage」が完成。
2年目の「Vin de Ollage 2019」は4種類の醸造となりました。

ふくしまワイナリープロジェクト

ふくしまワイナリープロジェクトは、福島県の特産品である果物の生産から加工、販売までを一体的に運営する新たな事業モデルを構築し、農産物や地元ブランドの付加価値向上を目指すもの。福島県産のリンゴや桃、梨、ブドウを原料に、ふくしま逢瀬ワイナリーでワインやリキュールなどを生産する一方、新たにワイン用ブドウの生産を開始する農家を支援しています。

●事業の全体像



2015年、ふくしま逢瀬ワイナリーが竣工した同じ年、郡山市内の農家の皆さんに醸造用のブドウ品種の植栽を始めてもらいました。そのブドウが2018年秋に初収穫を迎え、Vin de Ollage 2019の原料となったのは主に2019年秋、2回目の収穫を迎えたブドウです。まだ若木ですが郡山の豊かなテロワールを映し、明治維新の史跡「安積疏水」の流水を思い起こさせます。名前のOllageは、この地方の方言で自分の家を意味する「おらげ」にちなんでおり、「オラん家のワイン」と郡山の皆さんに自信を持って薦めてもらえるようにとの願いを込めています。

郡山産ワイン
Vin de Ollage
(ヴァン デ オラージュ)
2019

Vin de Ollage ルージュ 2019

メルロー、カベルネ・ソーヴィニヨンとブラック・クイーンをブレンド。鮮やかな赤色にキレのある酸味、カシスやプラムを思わせるエレガントな味わい。

価格：2,750円（税込）
Alc. 12%

Vin de Ollage シャルドネ 2019

シャルドネ100%。ライムのようなシトラスの香り。柔らかな酸味のあるフレッシュな味わい。

価格：2,750円（税込）
Alc. 11%

Vin de Ollage ソーヴィニヨン・ブラン 2019

ソーヴィニヨン・ブラン100%。青リンゴや若葉の香り。みずみずしいハーブのようなニュアンスに優しい酸味。

価格：2,750円（税込）
Alc. 11% Sold Out

Vin de Ollage 高尾 2019

郡山産の種なしブドウ「高尾」100%。高尾の甘く華やかな香り、口に広がるキャンディーや綿あめのようなチャーミングな風味。

価格：2,500円（税込）
Alc：10%

TOPICS

ふくしま逢瀬ワイナリーの新商品

会津盆地で減農薬にて大切に育てられたマスカット・ベーリーAを新樽で1年熟成させることでビターな仕上がりに。樽由来のトースト香の奥に微かな苺の香りが広がります。

2,970円（税込）750mℓ Alc.12%

左「もものブランデー」
1,760円（税込）
150mℓ Alc.45%

右「ももの種浸漬ブランデー」
1,870円（税込）
150mℓ Alc.44%

冬は寒く夏は暑い、福島盆地のテロワールの中で、大切に育てられた桃「あかつき」。甘い香りがギュッと詰まったブランデーはさまざまな飲み方でお楽しみいただけます。

樽熟成の赤ワイン
「Muscat Bailey A 2018」
（2019年12月発売）

ふくしま逢瀬ワイナリーとして初めての樽で熟成させたワインです。2018年に収穫された会津若松産のブドウ「マスカット・ベーリーA」を、約1年フレンチオークの樽で熟成させました。樽熟成ならでは複雑で上品な味わいの赤ワインです。ワイナリーのショップ限定で販売しています。

初のブランデー商品
「Ouse brandy」
（2020年6月発売）

福島県産の桃「あかつき」が原料のブランデー2種類を発売しました。果実の香りを活かした「もものブランデー」と、蒸留した酒に桃の種を漬け込んで色と香りを加えた「ももの種浸漬ブランデー」です。福島県を代表する桃「あかつき」を低温発酵させ、じっくり蒸留し、3年ほど熟成させたワイナリー初のブランデー商品です。当面はショップ限定で販売します。

リンゴのリキュール「OUSE POMME（ポム）」国際品評会で世界最高得点

林檎のリキュール『OUSE Pomme』が、「International Wine and Spirit Competition（IWSC）2019」で銀賞を受賞しました。IWSCは、50年目を迎えた酒類の国際品評会で、世界で最も権威ある品評会の一つです。『OUSE Pomme』はスピリッツ部門で受賞し、林檎のリキュールとしては、最高得点を獲得しました。

2月7日に郡山市で開催された表彰式の様子

福島民報社「ふくしま産業賞」特別賞受賞

ふくしま逢瀬ワイナリーは、福島民報社主催の「ふくしま経済・産業・ものづくり賞（略称：ふくしま産業賞）」において、特別賞を受賞しました。同賞は、福島県内の優れたものづくりや六次化の取り組み、先進的な企業経営を展開する企業、団体、個人を顕彰するもので、今回で5回目になります。

郡山市功労者表彰 特別表彰を受賞

令和元年度福島県郡山市功労者表彰において、当財団が特別表彰を受賞しました。この表彰は市政発展に尽力した個人・団体の功績を称えるものです。財団は、果物の生産から加工、販売までを一体的に運営する事業モデル構築を目指し、2019年3月に郡山産ワインの初出荷を実現した「ふくしまワイナリープロジェクト」の取り組みが「産業振興の功労」として認められたものです。

ふくしま逢瀬ワイナリー

Information

Open!

オンラインストア オープン!

ふくしま逢瀬ワイナリーは、3月にオンラインストアを開設しました。
遠方の方もインターネットから簡単に注文できるようになりました。ギフト用の化粧箱もオンラインで注文できますので、贈り物にも、ぜひ、福島県の果物の魅力が詰まったふくしま逢瀬ワイナリーの商品をご活用ください。

ギフト用の化粧箱（1本箱、2本箱）もご用意しています

商品ラインアップ

郡山産ワイン「Vin de Ollage」
→7ページ

CIDRE

「ふじ」100%のリンゴのスパークリングワイン。ヴィンテージ醸造で、2016、2017、2018を販売中。

「OUSE brandy」
ショップ限定販売→8ページ

「MUSCAT BAILEY A」

会津盆地の豊かな風土が育んだマスカット・ベーリーAを使ったロゼのスパークリングワインと、樽熟成のスティルワイン（ショップ限定販売 →8ページ）

リキュール

福島県産の果物を低温発酵後、銅製釜で蒸留したブランデーに果汁を加え、果物の豊かな風味が楽しめるお酒に仕立てました。冷やしてそのままストレートで、ロックやソーダ割り、カクテルにもおすすめ。

LineUp

Let's Go to

Fukushima Ouse Winery

山に囲まれた自然豊かなロケーション。お買い物やワイナリー見学だけでなく、芝生の広場で景色を見ながらのんびり休憩やピクニックもオススメ。晴れの日には郡山市街を一望できます。

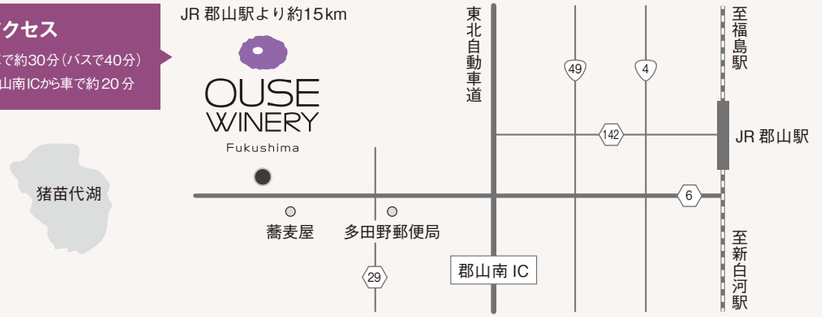
テイスティングはもちろん「かきイチゴ」のカフェメニューも

ショップには県内のおいしいもの、伝統工芸品も

スタッフがワイナリーを案内する見学ツアーも（要予約）

醸造所外のの芝生広場は解放感抜群

アクセス
- JR郡山駅から車で約30分（バスで40分）
- 東北自動車道郡山南ICから車で約20分



ふくしま逢瀬ワイナリー https://ousewinery.jp

ショップ営業時間：10:00~16:00（月曜定休、1～3月は水・土曜のみ営業）
0120-320307（10:00～17:00）
福島県郡山市逢瀬町多田野字郷士郷士2番地

Facebook　Instagram

産業復興・雇用創出支援

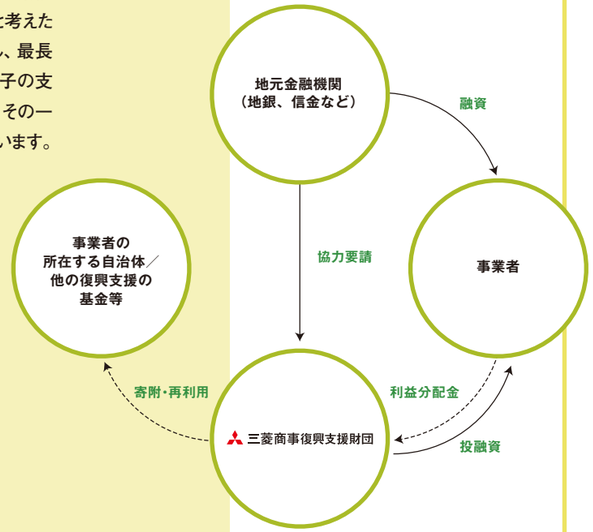
当財団では、被災地の経済再生に向け、産業復興や雇用創出に寄与する取り組みを展開しています。岩手県、宮城県、福島県の金融機関などと協働し、事業の再建や新規事業の立ち上げを目指す51の事業者への投融資を実施してきました。積極的に事業を推進する事業者のトピックスを紹介します。

Scheme

被災地の未来に対する投資

産業復興・雇用創出における分野では、金融支援（投融資）による活動を行っています。これは返さなくてはならないお金であるが故に生まれる適度な緊張感が、事業の継続を支えていくことに資すると考えたからです。ただし、通常の融資とは一線を画し、最長10年間、事業が軌道に乗るまでは元本や利子の支払いは発生せず、利益が実現した場合には、その一部を利益分配金として受領する仕組みとしています。この分配金は財団内部には留保せず、地元自治体や他の復興支援の基金等に寄附することや、被災地での復興支援活動に再利用することを基本方針としています。復興支援基金が被災地で循環する仕組みを整え、地域経済のさらなる自立促進を目指しています。

●産業復興・雇用創出支援 支援スキーム



● ラポールヘア・グループ

● 三浦商店

● ひろの屋

● ナカショク

● 協同水産

● 伊藤商店

● 仙台秋保醸造所

● サンフレッシュ小泉農園

● 南三陸町社会福祉協議会

● 宝来館

● 海楽荘（大船渡温泉）

● キャピタルホテル 1000

● 八木澤商店

● 会津中央乳業

● IIE

● 及川商店

支援先事業者

51件

Topics

「気仙沼きぼう基金」への寄附が実現

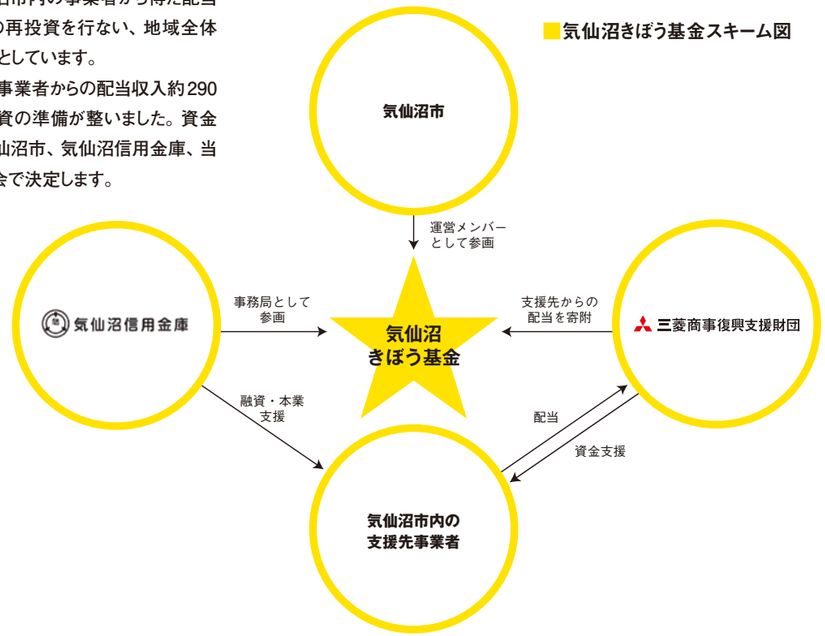
被災地での資金循環へ第一歩

産業復興・雇用創出支援では、事業者への金融支援を実施しており、受領した利益分配金は被災地の復興支援活動に再利用することを基本方針としています。2020年3月、当財団は、この資金循環の仕組みの第一号案件として、「気仙沼きぼう基金」への寄附を実施しました。

気仙沼きぼう基金

2013年2月に気仙沼信用金庫、気仙沼市と共同で設立。当財団が支援している気仙沼市内の事業者から得た配当収入を原資に地域産業への再投資を行ない、地域全体の復興につなげることを目的としています。
2020年3月、当財団は市内事業者からの配当収入約290万円を基金に拠出し、再投資の準備が整いました。資金の投資先は、公募の上、気仙沼市、気仙沼信用金庫、当財団で構成される選考委員会で決定します。

■気仙沼きぼう基金スキーム図



「気仙沼きぼう基金」の事務局を務めるのは、震災以降も常に被災した事業者に寄り添って支援を続けてきた気仙沼信用金庫です。信金の皆さんの想いを聞きました。

「気仙沼きぼう基金」事務局の皆さん
前列右から、井手治典 事務局長補佐（常務理事）、菅原 務 代表理事（理事長）、藤村栄治 事務局長（執行役員復興支援部部長）
後列右から、板林利行（復興支援部次長）、臼井洋平（復興支援部係長）
※括弧内は気仙沼信用金庫での役職

一つの成長が次に繋がる好循環を目指し次世代に誇れる地域づくりを

「気仙沼きぼう基金」設立当時、産業復興・雇用創出支援事業において得られる配当をどのように扱うかは、三菱商事復興支援財団にとっての検討課題ということを聞き、地域への再投資を提案したところ、快諾をいただきました。
今年度、気仙沼市「震災復興計画」の最終年度を迎え、世界中から支えられ進んできた復興は、被災地自身による歩みへとシフトしていくことになります。気仙沼市においては、大島大橋の開通や三陸道の延伸、商業施設のオープンとビジネスや観光に波及効果を期待させる動きがありました。一方で、地域を取り巻く課題は多様かつ複雑化しており、世界経済をも飲み込んだ新型コロナウイルスの脅威も、市民生活や地域経済に大きな変化をもたらしています。
本基金では、地域が抱えるさまざまな課題の解決に向け、市民・団体等が自主的・自発的に行う公益性のある事業を応援していきます。三菱商事復興支援財団から支援を受けた企業の成長が次の企業・地域の成長につながる好循環を目指し、基金を拠出いただいた三菱商事復興支援財団の想いをそのままに、次世代に誇れる地域づくりに貢献していきます。

Topics

●小高ワーカーズベース アトリエ「iriser－イリゼ－」（福島県南相馬市）

BEAMSとのコラボ商品やFANCL限定品を発表

小高ワーカーズベースが運営するハンドメイドガラスブランド「iriser－イリゼ－」は、2019年10月、BEAMS JAPANとのコラボ商品を発売しました。これは、福島県とBEAMSが連携して県の魅力を伝えるプロジェクト「ふくしまものまっぷ」の第18弾で、ハートと福島県名産の桃をイメージしたアクセサリーを開発しました。
また、FANCLのオンラインストアで素材やデザインにこだわったアイテムを厳選した「FANCL SELECTION」にて、オリジナルデザインの限定品を販売した他、ガラス工房設立5周年を迎えるに当たって、ガラスのストローなどの新商品を発表しました。

ガラスのストロー

ハート型でひっくり返すと桃になるBEAMSとのコラボアクセサリー。ネックレス、ピアス、ブローチの3種類

ブランドのコンセプトは“七転び八起き。織元復刻”。地域に眠っていた100年前の織機を修復し、地域の伝統織物である会津木綿の復刻を掲げ、暮らしに取り入れやすい会津木綿を提案する

●IIE（福島県会津坂下町）

新ブランド「会津木綿 青苧製織所（あおきせいしょくしょ）」中川政七商店で発売

IIE（イー）は、新ブランド「会津木綿 青苧製織所」を立ち上げ、2020年1月29日から全国の中川政七商店で発売を開始しました。第1弾として会津の伝統色を活かしたバッグ・ポーチ4種をラインアップ。全国発売に先駆けて、2019年11月1日には、同日オープンした渋谷スクランブルスクエアの中川政七商店 渋谷店で先行発売しました。

●ひろの屋（岩手県洋野町）

岩手県のコンクールで最高賞

2月に開催された岩手県水産加工品コンクールで、ひろの屋の「洋野うに牧場の四年うに『UNI ＆ 岩手産バタースプレッド』」が最高賞の農林水産大臣賞に輝きました。県内の優れた水産加工品を一堂に集めたこのコンクールで、ひろの屋の商品は出品数116点の中から最高賞に選ばれました。

「洋野うに牧場の四年うに『UNI ＆ 岩手産バタースプレッド』」。4年かけて「洋野うに牧場」で育てた旬のキタムラサキウニを、水揚げ後すぐに丁寧に蒸し上げ、良質の生乳から作られる岩手産バターと合わせたぜいたくなスプレッド。日本テレビ系列「満天★青空レストラン」でも紹介された

2015年宮城県初のワイナリーとして秋保温泉郷にオープン。自社のブドウ畑に囲まれた自然豊かなロケーション。ショップではワインの他、県内各地の加工食品も人気

●仙台秋保醸造所「秋保ワイナリー」（宮城県仙台市）

日本ワイナリーアワード2020 受賞

秋保ワイナリーは、「日本ワイナリーアワード2020」（日本ワイナリーアワード協議会主催）において、「コニサーズワイナリー」に認定されました。このアワードは、設立またはブドウの植え付けより5年以上経過した国内ワイナリーを対象としたもので、「5つ星」「4つ星」「3つ星」「コニサーズワイナリー」の4段階で評価され、秋保ワイナリーは、「評価に値する個性あるワインをうみだすワイナリー」として「コニサーズワイナリー」を受賞しました。
また、秋保ワイナリーは、国税庁の令和2年度「酒蔵ツーリズム推進事業」に選定されており、専門家の支援を受け、観光客にとってより魅力的なワイナリーを目指していきます。

復興庁の支援制度を活用

2019年度も復興庁の制度を活用させていただき、事業者への側面支援を行いました。

クラウドファンディング支援事業	いちばん星、旭屋、宝来館
専門家派遣集中支援事業	ナカショク、たろう観光ホテル、ヨシエイ加工

学生支援奨学金

学生支援奨学金は、被災により修学が困難になった学生を支援するため、2011年に三菱商事東日本大震災復興支援基金が設置しました。2012年から当財団が引き継いで給付を続け、2019年度に7名への給付を終え、対象者全員が受給期限を迎えました。2011年度からの支給者数は累計で4,907名になりました。2019年度に社会に羽ばたいた方、学生を見守ってきた大学の声を紹介するとともに、9年間の活動を振り返ります。

大学の声

震災後も夢をつないだ奨学金

東北医科薬科大学 学生課 **新田 茉音**さん（写真中央）

宮城県仙台市に所在する本学は、東北出身者の割合が高いこともあり、東日本大震災では多くの学生が被災しました。自宅家屋の損壊や保護者の失職、原発事故により避難を余儀なくされるなど、生活が一変し、学生の経済的不安も大きくなりました。

もとより本学では約半数の学生が奨学金を利用しておりましたが、被災により、さらに奨学金を必要とする学生が増えました。また、被災学生支援のため、自治体や民間財団など、多くの組織が奨学金制度を立ち上げるなど、社会的にも学生支援の動きがみられました。

特に三菱商事復興支援財団さまより支援いただいた給付奨学金は、学生にとって大きな助けとなったことは想像に難くありません。震災後も将来の夢を諦めることなく、学業を継続することができたのも、そのご支援あってこそだと思われます。

薬学部・医学部は必修講義が多く、さらに実習・研究などもあるため、学生はアルバイトをするのも難しい状況です。そのため薬学系・医学系大学において、奨学金は学生の経済的負担を減らし、勉学に集中するために重要な存在となっています。

2019年度卒業生

受給者の声

地域の薬剤師として頼られる存在に

2020年3月卒業 福島県郡山市　**鈴木 千佳**さん（写真中央左）

私は地元の福島で東日本大震災を経験しました。自宅は半壊で修繕費がかかり、家計が厳しくなりました。一度は薬剤師になる夢を諦めましたが、両親が私を説得してくれて薬剤師になるという夢に向かって大学に進学することになりました。

奨学金制度により6年間の大学を何不自由なく生活することができ、薬剤師として働けていることに感謝しています。

現在私はドラッグストアで研修を行っており、秋からは調剤薬局で勤務する予定です。ドラッグストアではお薬の知識だけでなく介護用品や健康食品の知識を学ぶことができており、地域の薬剤師としての在り方を少し感じることができたと思います。これからも地域の人たちに頼られる薬剤師になれるよう努力していきたいです。

学生支援奨学金の歩み

2011 「緊急支援奨学金」を設置

4年間を対象とした三菱商事東日本大震災復興支援基金の支援策の一つとして、4月15日「緊急支援奨学金」の名称で新聞広告やWEBで告知されました。国難ともいえる事態に際して、日本の未来を担う若者の一助になるという趣旨に基づき、給付型で、広く、簡便に給付できる形となりました。初年度は500名支給の予定でしたが、600名を超える応募があり、633名に給付しました。

2011年度 募集の概要

■支給額：月額10万円（1年間）
■対　象：短期大学生、大学生、大学院生（修士）
■応募資格（以下全てを満たす）
(1) 震災による経済的事由により修学が困難な状況が見込まれる。
(2) 心身共に健康かつ品行方正で学習意欲が高い。
(3) 他の奨学金（返済義務のある奨学金を除く）の支給を受けていない。
(4) 大学の長の推薦
■応募・推薦書類
・願書兼推薦書（写真貼付、大学の公印）
・罹災証明書

2012 三菱商事復興支援財団が引き継ぐ

2012年3月に三菱商事復興支援財団が設立され、財団が奨学金制度を継承。「学生支援奨学金」となりました。

2013 高校生への案内スタート

2013年度の募集から、大学進学を検討している高校生への周知のため、岩手、宮城、福島県の高校（公立・私立）への案内を開始しました（各県の教育庁・教育委員会経由）。

奨学生交流会

2013年度から2015年度にかけて、東京と仙台で奨学生交流会を開催しました。奨学生同士が復興に向けた思いを共有するとともに、復興の最前線でビジネスに取り組む事業者に講演してもらい、被災地の未来について考える機会としました。

2014 2015年度以降も奨学金を継続

当初4年間（2014年度まで）の施策として開始しましたが、2014年度に給付を受けている奨学生について、卒業予定年度まで支給を継続することになりました。

2019 奨学金支給が終了

2019年度に受給していた奨学生（医・薬学部）が全員卒業予定年度を迎えました。2011年度からの累計で4,907名に給付、支給総額は約56億円となりました。

DATA

■受給者数の推移

支給年度	受給者数	うち前年度から継続	出身県			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
2011年度	633名	—	116	303	189	25
2012年度	1,072名	439	140	535	342	55
2013年度	996名	696	141	508	302	45
2014年度	994名	615	148	498	316	32
2015年度	666名	666	79	338	226	23
2016年度	368名	368	41	184	130	13
2017年度	155名	155	17	81	52	5
2018年度	16名	16	0	11	5	0
2019年度	7名	7	0	3	4	0
合　計	4,907名	2,962	682	2,461	1,566	198

■大学所在地別の受給者数

	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	石川県	富山県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	京都府	大阪府	兵庫県	広島県	香川県	大分県	沖縄県
学校数	9	4	10	20	6	4	13	8	6	4	13	16	84	19	3	3	1	2	2	1	3	4	2	5	2	2	1	1	1	1
人　数	53	17	423	1,242	65	150	276	128	133	39	281	177	1,295	295	78	34	1	7	4	2	17	19	12	85	43	3	2	6	7	13

※合計で30都道府県の約250校。人数は2011年度から2019年度の累計（延べ人数）

Facts & Figures

● 産業復興・雇用創出支援

岩手県

支援先	概　要	融資額（百万円）
三浦商店 （岩手県洋野町）	岩手県内随一のサバの取扱量を誇る水産加工事業者への支援。	20
長根商店 （岩手県洋野町）	キノコや山菜の加工・販売を行う事業者の工場移転・拡張を支援。2015年5月竣工。	30
ひろの屋 （岩手県洋野町）	洋野町沿岸全域に広がる「うに牧場」で育成される北紫うにのブランド化事業を支援。2016年7月水産加工場竣工。	12.5
たろう観光ホテル （岩手県宮古市）	津波で壊滅的被害を受けたホテルの高台での再建支援。2015年6月「渚亭 たろう庵」オープン。	40
ナカショク （岩手県大槌町）	津波で全壊した工場を2012年再開。財団資金で一括仕入れ体制構築を支援。	40
伊藤商店 （岩手県大槌町）	釜石市に本社を置く水産加工業者の冷蔵施設再建を支援。	50
宝来館 （岩手県釜石市）	本館のリニューアルと、完全に流失した別館の再建を支援。2015年4月完成。	20
海楽荘 （岩手県大船渡市）	大船渡市碁石海岸で人気の民宿「海楽荘」を営む事業者へのホテル新規創業支援。	50
森下水産 （岩手県大船渡市）	大船渡市の水産加工業者の新工場建設支援。2015年2月竣工。	50
太洋産業 （岩手県大船渡市）	大船渡発祥の水産加工メーカー。同社主力商品である鮭フレークの工場再建を支援。2013年3月竣工。	100
キャピタルホテル1000 （岩手県陸前高田市）	産業復興・雇用創出支援第1号案件。気仙沼信用金庫と協働し、津波により全壊したホテルの再建を支援。2013年11月オープン。	100
八木澤商店 （岩手県陸前高田市）	200年以上にわたり陸前高田市で醤油・味噌などの醸造業を営んできた事業者への支援。	31
あんしん生活 （岩手県陸前高田市）	地元海産物を利用した冷凍加工品を製造販売する事業者への支援。	20
カメリアン・プロダクツサービス （岩手県陸前高田市）	2013年10月に起業した飲食店を展開する企業への創業支援。	30

支援先	概　要	融資額（百万円）
KUMIKI PROJECT （岩手県陸前高田市［東北拠点］） ※本社は神奈川県中郡二宮町に移転。	震災後起業した、地域資源の気仙杉を活用した家具キット等の製造販売事業者への支援。	5

宮城県

支援先	概　要	融資額（百万円）
気仙沼地域エネルギー開発 （宮城県気仙沼市）	木質バイオマスを利用した熱電併給事業への支援。2016年2月本格稼働。	100
気仙沼産業センター （宮城県気仙沼市）	気仙沼魚市場に隣接していた、海鮮市場「海の市」の再建支援。	50
三陸飼料 （宮城県気仙沼市）	気仙沼地域の水産加工業者から出る魚のアラ等を原料として、畜産飼料を製造する事業者に対する支援。	100
気仙沼ケーブルネットワーク （宮城県気仙沼市）	防災放送機能を重視する気仙沼市もバックアップする、ケーブルテレビ事業再建への支援。	50
駅前ストアー （宮城県気仙沼市）	気仙沼市内でスーパーマーケット「クリエみうら」を展開する事業者への支援。	50
ヨシエイ加工 （宮城県気仙沼市）	気仙沼で水揚げされるサメの買い付けにこだわる、フカヒレ加工業者への支援。	60
協同水産 （宮城県気仙沼市）	サメのすり身加工の特許を保有。2012年に事業再開。一部機械の更新を支援。	20
サンフレッシュ小泉農園 （宮城県気仙沼市）	壊滅的な被害を受けた水田地帯での、トマト水耕栽培事業創業を支援。2015年9月竣工。	50
南三陸町社会福祉協議会 （宮城県南三陸町）	津波により全壊したデイサービスの再建支援。町内に2カ所のデイサービス施設を建設。	22
及川商店 （宮城県南三陸町）	4工場が流出し、残った一つの工場で事業回復に努めてきた。水産加工団地への工場建設を支援。	20
及新 （宮城県南三陸町）	水産加工団地への、地元特産であるメカブの加工工場新設を支援。	50
セッショナブル （宮城県女川町）	東北産の杉などを利用して製造するエレキギターの工房開設支援。2016年3月工房を開設、同年12月第1弾モデルを発売。	20
アイローカル （宮城県女川町）	地産の素材を活用した手作りせっけんの製造販売事業を支援。若者の雇用増を目指す。	2
浜人 （宮城県石巻市）	十三浜で漁業の6次産業化を目指す事業者を支援。	2

支援先	概　要	融資額（百万円）
ヤマニシ （宮城県石巻市）	東北最大級の造船所。東日本大震災事業者再生支援機構や地元・七十七銀行が総額100億円規模の金融支援を実行。2014年1月、修繕ドック完成。	100
協働マネジメント （宮城県石巻市）	石巻市での飲食店開業支援。	19
ラポールヘア・グループ （宮城県石巻市）	被災地域の美容師に働く場を提供することを目的に起業した美容室チェーンへの支援。	40
桃浦かき生産者 （宮城県石巻市）	カキの6次化事業者へ、日本初の高圧式カキ剥き機導入を支援。2015年5月竣工。	30
大地フーズ （宮城県美里町）	冷凍ハンバーグ等の製造事業立て直しのため、冷凍保管庫の増設を支援。	—
村上商事 （宮城県塩竈市）	近海マグロ漁業や冷蔵保管業務を行う事業者への支援。	30
ゼライス （宮城県多賀城市）	東北地方唯一のゼラチンおよびコラーゲン製造販売企業を支援。	50
アップルファーム （宮城県仙台市）	仙台市における障がい者雇用飲食サービス事業への支援。	10
みちさき （宮城県仙台市）	津波により塩害を受けた4ヘクタールの土地に、大規模養液栽培ハウスを新設した事業者への支援。	100
仙台秋保醸造所 （宮城県仙台市）	東北産原料を積極的に活用。交流人口増加への寄与を目指す。赤とロゼ、シードルに続き、白ワインを発売。	50
GRA （宮城県山元町）	地元農家の方を雇用し、IT技術を駆使した新たなイチゴ栽培に挑戦している企業への支援。2015年6月通年栽培施設をオープン。	50

福島県

支援先	概　要	融資額（百万円）
旭屋 （福島県相馬市）	B-1グランプリ「なみえ焼そば」の加工工場移転を支援。2014年8月竣工。	50
あすびと福島 （南相馬ソーラー・アグリパークより変更） （福島県南相馬市）	福島県南相馬市に建設された太陽光発電所を利用した、子どもたちの職業体験プログラムへの支援。2013年5月オープン。	30
相馬の里 （福島県南相馬市）	南相馬市におけるサービス付高齢者住宅の新設支援。	30
南相馬復興アグリ （福島県南相馬市）	地元関係者とトマト生産施設を2015年11月建設。農業人材育成にも取り組む。	50

支援先	概　要	融資額（百万円）
小高ワーカーズベース （福島県南相馬市）	避難区域となった南相馬市小高区への帰還を促す事業活動を展開。2016年6月ガラスアクセサリー工房開設。	3
いちばん星 （福島県南相馬市）	農家民宿等を経営する社団法人の株式会社化を支援し、持続的な収益事業への成長と雇用増を目指す。	10
会津中央乳業 （福島県会津坂下町）	ワンランク上の乳製品を製造販売。チーズの新ブランド開発を支援し、2015年8月発売。	12
IIE （福島県会津坂下町）	震災後起業した、伝統工芸会津木綿を用いた雑貨商品の製作販売事業者への支援。	7
キャニオンワークス （福島県浪江町）	福島県浪江町で縫製工場を営業していた事業者の、いわき市への工場新設を支援。2014年4月竣工。	50
しらかわ五葉倶楽部 （福島県白河市）	ホウレン草の植物工場とムース食品工場による6次化事業を支援。2014年12月竣工。	50
什一屋 （福島県いわき市）	福島県富岡町から移転。2014年8月、いわき市でホテル事業再開。	50

● 学生支援奨学金

年度	受給者数
2011年度	633名（約　7.6億円）
2012年度	1,072名（約12.9億円）
2013年度	996名（約12.0億円）
2014年度	994名（約11.9億円）
2015年度	666名（約　8.0億円）
2016年度	368名（約　3.1億円）
2017年度	155名（約　0.9億円）
2018年度	16名（約　0.1億円）
2019年度	7名（約　0.1億円）
累計	4,907名（約56億円）

● 復興支援助成金

年度	助成件数
2011年度	185件（約4.5億円）
2012年度	184件（約4.2億円）
2013年度	48件（約1.2億円）
2014年度	8件（約0.5億円）
累計	425件（約10億円）

2019年度

財務報告

貸借対照表

2020年3月31日現在

公益財団法人 三菱商事復興支援財団

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　資産の部			
1．流動資産			
現金預金	18,588,800	4,638,588	13,950,212
売掛金	19,111,522	11,956,432	7,155,090
未収入金	10,653,400	13,016,584	△ 2,363,184
原料	14,240	733,310	△ 719,070
副原料	537,303	614,483	△ 77,180
資材	1,478,303	1,527,787	△ 49,484
仕掛品	53,449,967	97,608,699	△ 44,158,732
貯蔵品	69,750	0	69,750
前払費用	2,129,758	2,081,856	47,902
仮払金	0	1,317,600	△ 1,317,600
流動資産合計	**106,033,043**	**133,495,339**	**△ 27,462,296**
2．固定資産			
(2) 特定資産			
事業積立資産	151,225,448	325,773,960	△ 174,548,512
出資金	1,654,252,001	1,664,485,001	△ 10,233,000
長期貸付金	312,532,313	221,000,000	91,532,313
敷金	1,621,880	1,621,880	0
建物	231,283,248	482,316,843	△ 251,033,595
機械・設備	39,170,344	94,732,732	△ 55,562,388
建物附属設備	55,676,752	126,418,928	△ 70,742,176
構築物	14,816,800	45,846,185	△ 31,029,385
什器備品	748,461	1,300,557	△ 552,096
ソフトウェア	2,379,600	2,115,500	264,100
商標権	3,030,596	1,520,206	1,510,390
特定資産合計	**2,466,737,443**	**2,967,131,792**	**△ 500,394,349**
(3) その他固定資産			
建物附属設備	308,179	420,242	△ 112,063
什器備品	90,924	137,693	△ 46,769
敷金	15,500	36,100	△ 20,600
保証金	0	80,000	△ 80,000
長期未収収益	5,512,328	4,806,575	705,753
その他固定資産合計	**5,926,931**	**5,480,610**	**446,321**
固定資産合計	**2,472,664,374**	**2,972,612,402**	**△ 499,948,028**
資産合計	**2,578,697,417**	**3,106,107,741**	**△ 527,410,324**
Ⅱ　負債の部			
1．流動負債			
買掛金	26,411	6,459	19,952
未払金	9,236,211	10,438,496	△ 1,202,285
預り金	5,615	0	5,615
流動負債合計	**9,268,237**	**10,444,955**	**△ 1,176,718**
負債合計	**9,268,237**	**10,444,955**	**△ 1,176,718**
Ⅲ　正味財産の部			
1．指定正味財産			
指定正味財産合計	**2,556,226,443**	**3,067,616,071**	**△ 511,389,628**
（うち特定資産への充当額）	2,466,737,443	2,967,131,792	△ 102,323,657
2．一般正味財産	**13,202,737**	**28,046,715**	**△ 14,843,978**
正味財産合計	**2,569,429,180**	**3,095,662,786**	**△ 526,233,606**
負債及び正味財産合計	**2,578,697,417**	**3,106,107,741**	**△ 527,410,324**

三菱商事復興支援財団概要　2020年7月1日時点

名　　称　公益財団法人 三菱商事復興支援財団

設立目的　東日本大震災において被災した地域の復興に寄与することを目的とする

事業内容
1．奨学金の給付
2．団体（NPO法人や社会福祉法人など）に対する助成金の給付
3．その他、産業復興・雇用創出などに資する事業

役　　員

会長
小林　健　（三菱商事 取締役会長）

副会長
榊田 雅和　（三菱商事 代表取締役 常務執行役員
コーポレート担当役員（広報、サステナビリティ・CSR、総務、法務））

代表理事
齋藤 俊成

理事
足達 英一郎（日本総合研究所 理事）
大島 仁志　（公益財団法人 民際センター 評議員）
西澤 正俊　（三菱総合研究所 元副社長）

評議員
末吉 竹二郎（国連環境計画 金融イニシアチブ特別顧問）
鬼頭　宏　（静岡県立大学学長）
菊地 清貴　（三菱商事 執行役員 コンシューマー産業グループCEOオフィス室長）

監事
野内 雄三　（三菱商事 執行役員 主計部長）
藤間 秋男　（公認会計士）

サ イ ト　https://www.mitsubishicorp-foundation.org/

所 在 地　〒100-8086　東京都千代田区丸の内2-3-1
03-3210-9770（代）

［郡山事務所］
〒963-8004　福島県郡山市中町1-22 郡山大同生命ビル10階
024-955-6011